

第1回 下水道におけるリン資源化検討会

－ 全体スケジュールと検討事項 －

下水道に賦存するリンを貴重な資源とし、その回収・活用を図る上で、回収原価の改善や品質管理体制、地産地消型および広域循環型での流通ルートの構築など事業化を検討する際の判断手法を整備する必要があります。

本検討会は、下水道管理者のリン資源化事業の実施検討を支援する「下水道におけるリン資源化の手引き（仮称）」を取りまとめるにあたり、必要な事項を審議、検討をお願いするものです。

検討会のスケジュールは、全体で3回の開催を予定しており、その開催日程および検討事項は下記の通りです。

・ 第1回

【開催時期】 平成21年11月4日（水）15：30～17：30

【検討事項】 ① 全体スケジュールと検討事項（手引きの目的）
② 情報・話題提供
③ フィージビリティスタディー（FS）について

・ 第2回

【開催時期】 平成22年1月下旬

【検討事項】 ① FS途中経過（リン資源化技術の選定）
② 品質管理のあり方について
③ 資源化コストのあり方について
④ 「手引き（案）」の構成

・ 第3回

【開催時期】 平成22年3月上旬

【検討事項】 ① 下水道管理者と肥料メーカー等需要先との情報共有・調整のあり方について
② 「手引き」原稿の精査
③ まとめ

「下水道におけるリン資源化の手引き（仮称）」の目的

本手引きは、下水道管理者を対象とし、回収リンがどのように利活用されるかを踏まえた上でリンの資源化事業の実施を検討するためのものであり、必要となる技術的事項を整理するとともに、フィージビリティ・スタディにより検討手法のあり方を示すことを目的とする。

下水道には多くのリンが流入していると推計されているが、その有効利用量は1割程度に過ぎない。その原因として、様々なリン資源化技術が開発されているものの、リン資源化施設の設備費や薬剤費、維持管理費など回収コストが高価であること、回収リンの品質管理体制や流通ルートの構築などに課題があることが挙げられる。

世界的なリン資源需給の逼迫や主要産出国の輸出制限が顕在化する中で、リンの全量を輸入に頼る我が国では、下水汚泥をはじめとする国内未利用・低利用資源からのリン回収・活用を強く求められている。

これらを踏まえ、下水道管理者は、下水や下水汚泥からのリン資源化について、農業関係者等のユーザー側と連携しつつ、積極的に推進していくことが必要な状況となっている。

本手引きは、下水道に賦存するリンの量や全国的な分布状況、リン資源化技術の原理と特徴、資源化技術からみた製品品質と適用範囲などを整理するとともに、回収リンの品質管理のあり方について示す。また、地産地消型と広域循環型それぞれの流通形態におけるリン資源化技術の適用性や事業化の可能性についてフィージビリティ・スタディを行い、検討手法のあり方を示すことにより下水道管理者のリン資源化事業の実施検討を支援するものである。